

## 平成17年度推奨の優良図書

平成17年4月推奨

## 『いのちの食べかた』

森達也著

小学生（高学年）、中学生、高校生、青年及び一般対象

私たちの食卓に、毎日のように並ぶ豚肉や牛肉。これらの食肉はどこで生まれ、どのような過程を経て我々の口に運ばれるのか。それは誰もが知らない、誰もが知りたくない現実。

我々の命が、別な命の犠牲によって支えられていることを改めて痛感させられる。また、食肉加工やその歴史を紹介する中で、部落差別、いじめ、戦争の起きる原因といったことまでわかりやすく説明している。

身のまわりに存在する現実から目を背けるのではなく、自らがその問題を見つめ、自らで考える大切さを訴えており、青少年の人間的な愛情を豊かに育てる上で有益な作品である。



理論社発行 ￥1,050（税込）

平成17年4月推奨

## 『竜退治の騎士になる方法』

岡田淳著

小学生（中学年以上）対象

主人公の康男は小学6年生。忘れ物を取りに行った放課後の校舎で、幼なじみの優樹と偶然いっしょになる。優樹の家庭問題から疎遠になっていた二人は、誰もいないはずの教室へと向かう。そこで待っていた「竜退治の騎士 ジェラルド」。明日の観劇会にやっていたプロの劇団員だと薄々気付いた二人だったが、ジェラルドの話す物語や鬼気迫るパントマイムに、やがて本当の「竜」の姿を見る。

康男と優樹の間に生じた微妙な亀裂、優樹の家庭問題。竜退治の騎士ジェラルドがもたらした不思議な体験は、彼らに夢を与え、友情を取り戻していく大きなヒントを教えてくれた。

家庭環境や人間関係が複雑になりがちな現代の子どもたちに、温かいメッセージが感じられる作品である。



偕成社発行 ￥1,050

平成17年6月推奨

## 『夏のとっぺん』

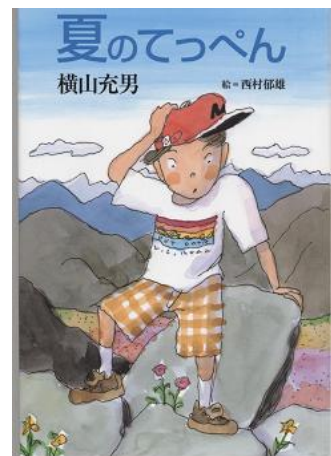
横山充男著

小学生（中学年以上）、中学生対象

主人公ゆうすけは、両親が離婚したため母と二人暮らし。小学4年生とはいえ、勉強に追われる毎日。ところが、母の長期出張と、「塾に行かないでもいい」という甘い言葉に乗せられたゆうすけは、山小屋に住む祖父

の元で夏休みを過ごすことになる。山小屋での厳しい生活と重労働に脱走まで決意したゆうすけだったが、やがて祖父の生き様や雄大な自然に心をひかれていく。

都会育ちの主人公が、厳しい自然の中で生きるために必要なことを学んでいくストーリーは、現代の子どもたちにも体験してほしい内容であり、“全てが便利で豊かが当たり前”という現代っ子たちに、自らの力で生き、人命のために働く尊さを語りかけるこの作品は、青少年の健康な心身の成長を図り、豊かな人格形成に役立つものである。



佼成出版社発行 ¥ 1,400 (税込)

平成17年6月推奨

『サンバードのくる窓』  
ダマル・ベルグマン著・柳田正子、熊谷清子訳  
小学生(高学年)、中学生、高校生対象

イスラエルの小学生アーロンは、同じアパートに住むイナお婆さんと大の仲良し。イナお婆さんの台所には野鳥のえさ台がしつらえてあり、その鳥たちの世話をするのがアーロンの日課。中でも、夏になるとやってくる美しい鳥“サンバード”はアーロンの大好きな鳥。「クラスの間にもサンバードを見せたい。」、そう待ち望んだアーロンの前についてサンバードがやってくる。その訪れはアーロンの人間関係に大きな変化をもたらし、彼が大人へと成長するきっかけを与える。

クラスメイトのいじめ、淡い恋心、強い好奇心……。アーロンは日本の小学生と何ら変わりのない普通の子ども。そんなアーロンが周囲で起きる様々な出来事、家族やイナお婆さんとの関わりの中で別れや悲しみを経て、少しずつ大人になっていく。

人間が成長する過程には様々な人々が関わってきて、その葛藤の中得る大切な何かを教えてくれるこの作品は、青少年の健康な心身の成長を図り、豊かな人格形成に役立つものである。



富山房インターナショナル発行 ¥ 1,200 (税込)

平成17年8月推奨

『森からの手紙～キツツキは森の大工さん・きかんぼうの子ぐま～』  
N・ストラコフ著  
小学生(低学年及び中学年)対象

・第1話 『キツツキは森の大工さん』

自分の彫った穴には誰が住んでいるのか？気になったキツツキは森中を巡る。自分の彫った穴には様々な動物が住みつき、役に立っている事を知ったキツツキは森のみんなのために穴を彫ることを決意する。

・第2話 『きかんぼうの子ぐま』

お母さんが昼寝をした際に、森の探検に出かけた子ぐま。切り株をのぞいたり、石を持ち上げたり……。森の中でたくさんの発見を子ぐまだったが

最後はお母さんに見つかってしまう。

動物の世界にも存在する ” 助け合い ” や ” 共存するためのルール ”。

それらをわかりやすく描いたこの作品は、青少年が社会の良識を身につけ、倫理観をかん養するために役立つものである。



福音館書店発行 ¥ 1, 2 0 0 ( 税込 )

平成 1 7 年 9 月 推 奨

『うちにあかちゃんがうまれるの』

いとうえみこ / 文 伊藤泰宏 / 写真

小学生、中学生、高校生、青年及び一般対象

4人目の赤ちゃんの妊娠から自宅出産までを追った写真記録絵本。写真撮影は父、文章は小学1年生の姉・まなかちゃんの言葉を中心に構成しており、生まれてくる赤ちゃんへの愛情がいっぱい詰まった作品に仕上がっている。

お母さんのお腹が大きくなるにつれ、赤ちゃんに対する家族の愛もふくらんでいく。また、出産に立ち会う子どもたちの表情は、生まれてきた赤ちゃんへの期待と愛情で満ちており、6歳の姉・まなかちゃんの言葉には、初めてできた弟に対する素直な気持ちが込められている。

命の重さを身をもって知る機会が少ない今、子どもたちに「命の原点と大切さ」を伝えるこの作品は、青少年の人間的な愛情を豊かに育てるものであり推奨に値する。



ポプラ社発行 ¥ 1, 2 0 0 ( 税込 )

平成 1 7 年 9 月 推 奨

『ぼくもいくさに征くのだけれど～竹内浩三の詩と死～』

稲泉連著

高校生、青年及び一般対象

” そんなまぬけなぼくなので どうか人なみにいくさができますよう 成田山に願かけた ” ( 竹内浩三の詩より )

映画監督を夢見ながらも、学徒出陣により太平洋戦争へ出征、23歳という若さで戦死した詩人・竹内浩三の生涯を追ったノンフィクション作品。

著者・稲泉連は、浩三の足跡を追って ” 最期の地 ” となったフィリピンにも赴き、彼がこの世に残した思いを一滴漏らさず汲み取るようとしている。

どこか呑気で憎めない浩三青年。そんな浩三にも戦争の現実は無情なく迫ってくる。国を思う心、映画監督への夢、戦争への不安……決して相容れない希望と現実の間で揺れ動く浩三の気持ちが時代を越えて伝わってくる。映画監督にはなれなかった、恋した女性に思いを告げられなかった、それでも短い生涯を明るく、懸命に生きた青年の姿が胸を打つ。



第36回大宅壮一ノンフィクション賞受賞作品。

中央公論新社発行 ￥2,200(税込)

平成17年12月推奨

『シノダ!チビ竜と魔法の実』

富安陽子著

小学生(中学年及び高学年)、中学生、高校生、青年及び一般対象

ごく普通に見える信田家の5人家族には重大な秘密がある。それは、ママの正体がキツネであること。パパは人間だが、3人の子どもはキツネの血を引いており、その不思議な力で様々な困難を乗り越えていく。

人間とキツネの夫婦という、現実にはあり得ない設定でありながらも、そこで描かれる家族の絆と愛情は、人間の家族と何ら変わることはない。優しいパパ、愛情深いママ、何事にも懸命に取り組む子どもたちの姿はとて微笑ましく、スリルに満ちた物語も温かさに包まれている。

夢と冒険にあふれ、どんな困難にも負けない強く明るい気持ちが伝わってくるこの作品は、青少年の人間的な愛情を育て、豊かな人格形成に役立つものであり、推奨に値する。



中央公論新社発行 ￥1,200(税込)

平成17年12月推奨

『山古志村ふたたび』

中条均紀著

小学生、中学生、高校生、青年及び一般対象

平成16年10月23日に発生した新潟県中越地震、山古志村は震度7の激震に襲われ崩壊した。その山古志村の震災前の美しい姿と人々の復興への思いを込めた写真集。巻末には、長島村長の「私たちは必ず山古志の地に帰ります」という力強いメッセージが掲載されている。

~このおとぎ話が幸福な結末でありますように~

作品に添えられた願いからは、どんなに困難であっても、いつか故郷へ帰ろうと心をひとつにする人々の気持ちが伝わってくる。村相撲で競う子どもたち、美しい棚田、笑顔にあふれる花嫁・・・そこには我々が忘れかけたおとぎ話のような風景が広がっている。

自然というものは時に美しく、時に恐ろしい。しかし、故郷を思う人々の心は、たとえ村が崩壊しても失われることはなかった。日本の原風景と郷土を愛する人々の心が伝わるこの作品は、青少年の人間的な愛情と、自然を愛し、自然の尊厳さに対する敬虔な心を育てるものであり、推奨に値する。



小学館発行 ￥2,000(税込)

平成18年2月推奨

『ヒットラーのむすめ』

ジャッキー・フレンチ著 さくまゆみこ訳  
小学生（高学年）、中学生、高校生、青年及び一般対象

アンナとマークたちがスクールバスの待合所で毎日のように行う“お話ゲーム”。ある雨の日の“お話ゲーム”で、アンナは「ヒトラーに娘がいたの・・・」と語り始める。マークは「ヒトラーに娘なんかいなかったよ」とアンナに抗議するが、それでもアンナは話をやめず、そのストーリーは仲間たちの心に強い印象を残した。ヒトラーに関心を持ったマークは、周囲の大人たちにヒトラーについて様々な質問を投げかける。

ヒトラーを通して戦争や社会のあり方を考え、問題意識を抱きつつ成長していこうとする姿が生き生きと描かれている。これから大人になっていく子どもたちが、グローバルな問題意識を持つきっかけを与えてくれるこの作品は、青少年の人間的な愛情を豊かに育て、社会の良識と倫理観の涵養に役立つものであり、推奨に値する。



鈴木出版株式会社発行 ￥1,400 (税込)

平成18年2月推奨

『香港の甘い豆腐』  
大島真寿美著  
中学生及び高校生

主人公・彩美は17歳の少女。将来の夢もなく、今の自分にも不満があり、複雑な過去も抱えている。それは、生まれたときから父親がいなかったという過去。不登校になり、留年を待つだけとなった夏休み、彼女が母親に向かって放った一言が、彼女を香港に連れていくことになる。

初めて接した父親との対話や、香港に生きる人々のエネルギーは、彼女に「生きることをエンジョイ」する気持ちを与えてくれた。

【元気の渦が見える】

彩美は香港の街並と人々の熱気をそう表現した。自分が何をしてもうまくいかない事を、みんな「父親がいらない」せいにする彩美だが、根はとても素直な17歳。現代社会にもよくいそうな彼女のキャラクターは、同世代の子どもたちに奇妙な共感を呼び起こす。不安と迷いに押しつぶされていた少女が自信を取り戻し、新たな人生の一步を踏み出していくこの作品は、青少年の人間的な愛情を育て、豊かな人格形成に役立つものであり、推奨に値する。



理論社発行 ￥1,575 (税込)